

第2章 条件不利地域圏／地方中枢拠点都市圏在住の若者における移動経験と定住希望

成田 凌（首都大学東京大学院 博士後期課程）

2-1. はじめに

(1) 本章の目的

本章の目的は、条件不利地域圏（むつ市）と地方中枢拠点都市圏（おいらせ町）在住¹⁰の若者における過去の移動経験と現住地域での定住希望・定住の見通し、車の所有状況について大まかな傾向をつかむことである。具体的には、①現住地での定住希望〔Q1g〕、②現住地での定住予測・見通し〔Q1h〕、③同居家族員の車の所有〔Q4〕、④居住歴（現住地が「地元」か／現住地に移ってきた経緯・理由）〔Q5〕、⑤引っ越し経験の有無・時期〔F9〕、⑥前住地（都道府県・市町村）〔F10〕、⑦引っ越した理由〔F11〕、の7変数の単純集計とクロス集計表の結果から検討する。

(2) 使用するデータと回答者の基本属性

また、本章ではクロス集計表を作成する際に、性別、出身地、年代、学歴、婚姻状態、職業、個人年収などを独立変数とするが、次のように各変数を加工して用いた（表1）。「性別」は男性／女性、「出身地」は（調査対象）市町村内¹¹／青森県内／青森県外、「年代」は30代（＝1978年5月～1988年4月生まれ）／20代（＝1988年5月～1998年5月生まれ）で区分した。「学歴」は高校卒業後の進路で移動経路が異なることを想定し、高卒以下（＝中卒・高卒）／高専・短大・大卒以上（＝専門学校卒、短大・高専卒、大学・大学院卒）で区別した¹²。「婚姻状態」は既婚／未婚¹³、「職業」はSSM調査の職業分類を参考にしつつ、かつ、海上自衛隊の基地所在地であるむつ市では自衛隊隊員（＝保安）が多いことが想定されるため、専門技術管理（＝専門・技術、管理）／事務販売（＝事務、販売）／サービス／製造・運輸・建設など（＝製造作業・機械操作、輸送・機械運転、運搬・清掃・包装、建設作業）／保安／農林漁業・その他（＝農林漁業、その他）¹⁴と区分した。そして年収は「個人年収」を用い、100万円未満（＝所得なし、100万円未満）／100万円台／200万円台／300万円台／400～500万円台／600万円台以上と区分した。

次節以降、過去の移動経験、および現住地域での定住希望・定住の見通しについて検討するが、それに先立ち、むつ市とおいらせ町の回答者の基本属性を示しておく¹⁵（表2）。性別はどちらともほぼ半数で、出身地はむつ市で市内出身者（70.3%）、県外出身者（13.9%）がやや多く、おいらせ町ではおいらせ町外の青森県出身者が3割強みられた。また、ともに年代は30代の方が多い（おおよそ20代：30代＝4：6）、婚姻状態も既婚者が4割前後、未婚者が6割前後である。学歴についても大きく違いはない

¹⁰ 本調査では、轡田（2016）における「地方中枢拠点都市」とその都市圏外にある周辺地域としての「条件不利地域圏」（あるいは、「まち」と「いなか」）に対応するように、前者はおいらせ町、後者はむつ市が選定された。また選定にあたっては、両地域の人口規模が比較的似通っている一方で人口動態が異なること、商業施設や住環境などが「地方都市」的／「田舎」的であること、両地域に社会経済的な結びつきがあること（雇用圏や平日生活圏は異なるが、休日生活圏は重なる）なども検討されている。調査対象地選定理由および調査対象地の概要については、序章（羽瀧）や第4章（白石）、第11章（轡田）を参照。

¹¹ むつ市の調査票ではむつ市（旧むつ市、旧大畑町、旧脇野沢村、旧川内町を含む）出身者が、おいらせ町の調査票ではおいらせ町（旧百石町、旧下田町を含む）出身者が該当する。

¹² そのため、ここでは（専門学校、高専・短大、大学・大学院）「在学中」を除いた。

¹³ クロス集計をおこなう際に該当者が少数であったこと（むつ22人、おいらせ21人）、別に詳細な解釈が必要となることなどをふまえ、本稿では「離死別」者を除外して分析をおこなった。

¹⁴ 「農林漁業」従事者が少数であったため（むつ2人、おいらせ9人）、本稿では「その他」の職業と合わせた。

¹⁵ 各変数における集計結果や分析結果は、巻末の単純集計表および各章を参照。

が、むつ市は高卒以下が、おいらせ町は高専・短大・大卒以上が若干多くなっている。職業は、ともに事務販売が約 25%、専門技術管理とサービスがそれぞれ 20%前後、製造・運輸・建設なども 20%弱の割合だが、むつ市で保安が約 15%みられるのが特徴的である。個人年収は 100 万円以下が 2 割弱、100 万円台が 2 割前後、200 万円台が約 2 割と、どちらの地域も約 6 割が 200 万円台以下である。

表1 クロス集計表に用いた変数の説明

性別	男性／女性
出身地	(調査対象)市町村内／青森県内／青森県外
年代	20代＝1988年5月～1998年5月生まれ 30代＝1978年5月～1988年4月生まれ
学歴	高卒以下＝中卒、高卒 高専・短大・大卒以上＝専門学校卒、短大・高専卒、大卒・大学院卒
婚姻状態	既婚＝結婚している 未婚＝結婚したことはない
職業	専門技術管理＝A専門・技術、B管理 事務販売＝C事務、C販売 サービス＝Eサービス 製造・運輸・建設など＝F製造作業・機械操作、G輸送・機械運転、 H運搬・清掃・包装、I建設作業 保安＝J保安 農林漁業・その他＝K農林漁業、Lその他
個人年収	100万円未満＝所得なし、100万円未満 100万円台／200万円台／300万円台／400～500万円台／ 600万円台以上＝600～700万円台、800～900万円台、1000万円以上

表2 回答者の基本属性

変数名		むつ %(人)	おいらせ %(人)	変数名		むつ %(人)	おいらせ %(人)
性別	男性	55.2(187)	47.4(161)	職業	専門技術管理	19.9(57)	24.9(75)
	女性	44.8(152)	52.6(179)		事務販売	24.5(70)	23.9(72)
出身地	市町村内	70.3(227)	58.1(186)	サービス	17.5(50)	21.9(66)	
	青森県内	15.8(51)	33.8(318)	製造・運輸・建設など	16.8(48)	18.9(57)	
	青森県外	13.9(45)	8.1(26)	保安	15.4(44)	3.3(10)	
年代	20代	41.3(140)	42.6(145)	農林漁業・その他	5.9(17)	7.0(21)	
	30代	58.7(199)	57.4(195)	個人年収	100万円未満	19.1(61)	17.6(56)
学歴	高卒以下	52.2(167)	47.6(150)		100万円台	16.3(52)	21.9(70)
	高専・短大・大卒以上	47.8(153)	52.4(165)		200万円台	22.9(73)	21.0(67)
婚姻状態	既婚	43.4(133)	39.4(121)		300万円台	18.8(60)	20.4(65)
	未婚	56.7(174)	60.6(186)		400～500万円台	17.6(56)	16.0(51)
				600万円台以上	5.3(17)	3.1(10)	

2-2. 引っ越し経験の有無、および前住地からの引っ越し理由

ここでは、F9「あなたが現住地に引っ越された時期をお教えてください〔A□年前／B 引っ越したことはない〕」、F11「あなたが現在引っ越された理由についてお答えください〔複数回答〕」の回答結果から、引っ越し経験の有無、およびその時期と理由についてみていきたい。

(1) 単純集計

まず、引っ越し経験の有無を確認しておきたい（表 3）。引っ越した経験がある回答者は、むつ市が 73.9%、おいらせ町が 71.4%と両地域とも、7 割以上の回答者が出身地域からの引っ越しを経験していた。したがって、一度も「引っ越したことがない」という回答者は、ともに約 4 分の 1 前後であった（むつ市が 26.1%、おいらせ町が 28.6%）。

表3 引っ越し経験の有無

	むつ	おいらせ
引っ越したことがある	73.9	71.4
引っ越したことはない	26.1	28.6
N	329	329

また、引っ越し経験者のうち現住地に引っ越してきた時期を表 4 に示した¹⁶。両地域を比較すると、むつ市の方が現住地域での居住年数が短い傾向にある。むつ市では、5 年以内に引っ越してきた回答者が 53.1%、10 年以内に引っ越してきた回答者となると 80.9%と 8 割を超える。一方のおいらせ町では、5 年以内に引っ越してきた回答者が 46.2%、10 年以内で 71.6%だった。つまり、現住地域に引っ越してきてから 10 年以上経過している回答者は 3 割に満たない（むつ市が 19.1%、おいらせ町が 28.4%）。

さらに、現住地に引っ越してきた理由をみてみたい（表 5）。むつ市・おいらせ町ともに「その他」の割合が最も多かったが¹⁷、それを除くと、引っ越し理由として多くあげられていた項目は、むつ市では、回答者自身の転勤（34.0%）、住宅の購入・建設（13.0%）、おいらせ町では、住宅の購入・建設（28.9%）、自身の転勤（16.2%）だった。他方で、回答者自身や配偶者の親との同居のために引っ越してきたという割合は、両地域とも、いずれの選択肢も 5%前後にとどまった。以上のように、むつ市では「自身の仕事のため」に引っ越してきており、おいらせ町では、「住宅の購入のため」に転居している傾向があることを指摘できよう。

¹⁶ なお、調査票の選択肢は「A. □年前／B. 引っ越したことはない」である。なかには「6 か月」や「1.5 年」という回答もみられたが、その場合には切り上げる処理を施した。

¹⁷ ただし、むつ市・おいらせ町ともに「その他」と回答した割合が最も高かったため、調査票における選択肢の設定が適当ではなかった可能性もあるため、その点は留意する必要がある。

表4 現住地に引っ越してきた時期(□年前)

	むつ		おいらせ	
	(%)	累積(%)	(%)	累積(%)
1	17.0	17.0	11.9	11.9
2	8.7	25.7	8.5	20.3
3	7.5	33.2	8.5	28.8
4	10.4	43.6	6.8	35.6
5	9.5	53.1	10.6	46.2
6	6.6	59.8	6.4	52.5
7	4.1	63.9	6.4	58.9
8	5.4	69.3	3.4	62.3
9	2.5	71.8	3.0	65.3
10	9.1	80.9	6.4	71.6
11	2.1	83.0	3.0	74.6
12	1.2	84.2	2.1	76.7
13	3.7	88.0	0.8	77.5
14	0.8	88.8	2.5	80.1
15	1.7	90.5	2.5	82.6
16	1.7	92.1	0.8	83.5
17	1.2	93.4	2.1	85.6
18	0.8	94.2	1.7	87.3
19	0.4	94.6	0.4	87.7
20	1.2	95.9	1.7	89.4
21	0.4	96.3	2.1	91.5
22	0.0	96.3	2.1	93.6
23	0.0	96.3	2.5	96.2
24	0.4	96.7	0.8	97.0
25	0.4	97.1	2.1	99.2
26	0.0	97.1	0.0	99.2
27	0.0	97.1	0.0	99.2
28	0.4	97.5	0.0	99.2
29	0.0	97.5	0.4	99.6
30	0.8	98.3	0.0	99.6
31	0.0	98.3	0.0	99.6
32	0.4	98.8	0.4	100.0
33	0.0	98.8	0.0	100.0
34	0.4	99.2	0.0	100.0
35	0.4	99.6	0.0	100.0
36	0.0	99.6	0.0	100.0
37	0.4	100.0	0.0	100.0
38	0.0	100.0	0.0	100.0
39	0.0	100.0	0.0	100.0
N	241		236	

表5 現住地に引っ越した理由(複数回答可)

	むつ			おいらせ		
	あてはまる	あてはまらない	N	あてはまる	あてはまらない	N
自身の転勤	34.0	66.0	238	16.2	83.8	228
配偶者の転勤	5.0	95.0	238	5.3	94.7	228
子どもの進学	2.5	97.5	238	1.8	98.2	228
住宅の購入や建設など	13.0	87.0	238	28.9	71.1	228
自身の親との同居の必要	5.0	95.0	238	5.7	94.3	228
配偶者の親との同居の必要	3.8	96.2	238	4.8	95.2	228
その他	39.9	60.1	238	40.6	59.4	229

表6 現住地に引っ越した理由(「その他」自由回答):むつ市

	区分	その他:回答内容(自由記述)	(%)	
1	進学	自身の進学	1.1	2.2
2		進学(自分)	1.1	
3	卒業	専門学校を経て帰ってきた	1.1	5.6
4		大学卒業	1.1	
5		短大を卒業したから地元へ帰った	1.1	
6		他の地域で学生	1.1	
7		学校卒業したので、一度戻ると親が	1.1	
8	自立	自立	1.1	4.4
9		一人暮らしへの憧れ	1.1	
10		一人立ち	1.1	
11		母親(弟)との生き方・考え方(価値観)の違い	1.1	
12	地元貢献	地元でなにかしたくて	1.1	1.1
13	就職	自分の就職	1.1	23.3
14		就職	7.8	
15		就職(自分)	1.1	
16		就職してすぐの勤務地が現在地	1.1	
17		就職のため	3.3	
18		就職のため上京	1.1	
19		就職の為	1.1	
20		職場から奨学金を借りていたため	1.1	
21		大学卒業し、就職の為	1.1	
22		大学卒業後の就職先だったため	1.1	
23		部隊配属	1.1	
24		寮生活のため	1.1	
25	仕事のため	1.1		
26	会社経営	会社経営	1.1	1.1
27	家業継承	親のお店を継ぐため	1.1	1.1
28	転職	自分の転職	1.1	3.3
29		転職	2.2	
30	退職	仕事を辞めたため	1.1	5.6
31		退職して戻ってきた	1.1	
32		退職のため	1.1	
33		期間工の契約期間が終了したが当時は再就職先も将来のことも不透明だった	1.1	
34		大学中退⇒フリーターになり仕送りをもらっていたが仕送り続けられない	1.1	

表6. (続き)現住地に引っ越した理由(「その他」自由回答):むつ市

35		結婚	5.6	
36		結婚し、今の主人の仕事場がむつ市だったため	1.1	
37		結婚してむつ市に住んで、離婚してからもそのまま住み続けている	1.1	
38		結婚でアパートを借りた	1.1	
39		結婚のため	2.2	
40	結婚・同棲	結婚の為	1.1	17.8
41		結婚を期に	1.1	
42		今の配偶者と、結婚するため	1.1	
43		同棲をするため	1.1	
44		配偶者との結婚	1.1	
45		配偶者との同せい	1.1	
46		家族会議の結果、小さい子どもがいた為	1.1	4.4
47	出産・子育て	子どもができたから	1.1	
48		子どもが産まれるにあたって地元で子育てするため	1.1	
49		出産のため、後の生活のため	1.1	
50		自分の離婚を機に	1.1	3.3
51	離婚	離婚	2.2	
52		シャワーのある家、広めの家	1.1	4.4
53	住居	建物に不満があったから	1.1	
54		県営住宅の募集があったから	1.1	
55		市営住宅の抽選	1.1	
56	立地	職場が六ヶ所のため	1.1	1.1
57	建て替え	実家(産まれた時から。結婚後同じ敷地に新築した)	1.1	1.1
58	親・配偶者との同居	親(配偶者)との同居をした為	1.1	1.1
59	配偶者の転職	配偶者の転職 ※もと配偶者?	1.1	1.1
60	親の看護・介護	親の病気	1.1	1.1
61	親の離婚	両親のりこん	1.1	1.1
62		親の転勤	2.2	4.4
63	親の転勤	父の転勤	2.2	
64		父が住宅を建てたから	1.1	2.2
65	実家建て替え	実家が売却された	1.1	
66	祖父母との同居	祖父、祖母との同居のため	1.1	2.2
67	祖父母との同居	祖父母の介護・就職が両立できなかったため	1.1	
68		今住んでいる地域が「地元」であり、今も他の地域の学校に行っている。	1.1	6.7
69		実家へ戻った	1.1	
70	不明	出戻り	1.1	
71		地元に戻ってきた	1.1	
72		家族の都合で	1.1	
73		転勤	1.1	

表7 現住地に引っ越した理由(「その他」自由回答):おいらせ町

	区分	その他:回答内容(自由記述)	(%)	
1	進学	学校へ行くため	1.2	7.3
2		自分の進学	2.4	
3		進学	3.7	
4	卒業	学校卒業	1.2	3.7
5		専門学校卒業したから	1.2	
6		大学の卒業	1.2	
7	退学	自分の退学	1.2	1.2
8	自立	親からの自立	1.2	1.2
9	就職	就職	3.7	9.8
10		大学を卒業し、地元就職のため	1.2	
11		大学卒業後、地元に戻って就職するため	1.2	
12		Uターン就職	1.2	
13		就職(自分の)	1.2	
14		就職のため	1.2	
15	退職	県外に就職していたが退職したため	1.2	5.6
16		仕事をやめた為	1.2	
17		仕事を辞めたため	1.2	
18		退職	1.2	
19		退職後地元に戻ってきた	1.2	
20	転職	転職	2.4	2.4
21	都会脱出	都会の生活に疲れて地元に戻ろうと思った	1.2	2.4
22		都会の生活に満足した	1.2	
23	結婚・同棲	結婚	12.2	20.7
24		結婚したから	1.2	
25		結婚したため	1.2	
26		結婚のため	1.2	
27		結婚予定のため	1.2	
28		配偶者との結婚で2人暮らしをするため	1.2	
29		恋人との同居	1.2	
30	恋人と同棲する為	1.2		
31	出産・子育て	戸建て借家でないと小さい子を複数名育てる事に気を遣う為(音の問題)	1.2	2.4
32		出産	1.2	
33	離婚	離婚	4.9	8.5
34		離婚・親の離婚が重なったから	1.2	
35		離婚したため	1.2	
36		離婚した為	1.2	
37	住居	アパート	1.2	8.5
38		アパートが狭いため	1.2	
39		より良い借家(広さ、ペット可)を求めて	1.2	
40		家探し	1.2	
41		会社の借り上げ住宅の変更のため	1.2	
42		公営住宅の入居が決まったから	1.2	
43		立ち退き	1.2	
44	立地	仕事の通勤のため	1.2	3.7
45		自分と配偶者の職場の中間地点	1.2	
46		実家にも近く、勤務地にも近いため	1.2	
47	配偶者の親との同居	生活難を予想し、夫の両親の家に行きこんだ	1.2	1.2
48	その他:配偶者の希望	配偶者が自分の地元に戻りたいと望んだため	1.2	1.2
49	親との同居	親との同居の必要	1.2	2.4
50		親の近くにしようと思ったため(同居ではない)	1.2	

表7. (続き)現住地に引っ越した理由(「その他」自由回答): おいらせ町

51		親の転勤	2.4	
52	親の転勤	父の転勤	3.7	7.3
53		父親の転勤	1.2	
54	親の結婚	結婚(親)	1.2	1.2
55	親の離婚	両親の離婚	1.2	1.2
56	実家建て替え	親の住宅の建築	1.2	1.2
57	祖父母との同居	祖父祖母との同居	1.2	4.4
58		祖父母との同居	1.2	
59		祖父母と同居の必要	1.2	
60		祖父母の同居	1.2	
61	不明	実家の都合	1.2	1.2
			N	82

あわせて、「その他」で自由記述された回答の内容をみていきたい¹⁸(表6および表7)。回答者自身に関するものとして、「進学」「卒業」「退学」「自立」(「地元貢献」)「都会脱出」「就職」「会社経営」「家業継承」「転職」「転勤」「退職」「結婚・(配偶者・恋人との)同棲」「出産・子育て」「離婚」「住居」「立地」「建て替え」があげられていた¹⁹。また、配偶者や親などとの関連するものとして、「親・配偶者との同居」「配偶者の親との同居」「配偶者の転職」「その他:配偶者の希望」,「親の看護・介護」「親との近居」「親の転勤」「親の結婚」「親の離婚」「実家の建て替え」「祖父母との同居」があげられた。

むつ市では「自身の就職」23.3%、「転職」3.3%など仕事関連の理由が約25%あった。また、「配偶者や恋人との結婚・同棲」が17.8%、「出産・子育て」関連が4.8%と合わせて20%をこえる。その他、「学校の卒業」や「退職」「離婚」したために戻ってきたというケースがそれぞれ5%前後みられた。一方のおいらせ町では、「自身の就職」が9.8%と、むつ市と比較すると少なかった。他方で「配偶者や恋人との結婚・同棲」が20.7%、また「住居」や「立地」など住み替え関連のために引っ越したというケースが10%程度みられるのが、むつ市とやや異なる点といえる。また、「(義)両親との近居」や「祖父母との同居」のためという記述もやや多くみられた。先の回答もあわせると、むつ市は仕事関連での、おいらせ町は住宅の購入や同居をとまなう住み替えによる転入が多い点、それぞれ地域の特徴だといえそうである。

(2) クロス表集計①: 属性別にみる引っ越し経験の有無

続いて、性別、年代、学歴、職業、個人年収ごとに引っ越し経験の有無をみていきたい(表8)。性別では、むつ市の女性の引っ越し経験有がほかに比べて5%以上高い(77.6%)。年代別でみると、ともに20代が65%前後、30代が8割弱引っ越しを経験している。学歴別では、高卒以下はほぼ同じだが(約65%)、むつ市の専門・短大・大卒以上が82.7%とおいらせに比べて7%、高卒以下と比べると約15%高い。職業別にみると、両地域とも保安(むつ市95.3%、おいらせ町100.0%)、専門技術管理(むつ市80.0%、おいらせ町80.3%)で引っ越し経験有の割合が高い。両地域で傾向は異なるが、保安や専門技術管理に比べると事務販売(むつ市67.6%、おいらせ町76.1%)、サービス(むつ市71.4%、おいらせ

¹⁸ 「その他」の回答の区分は、以下の手順でおこなった。回答内容をもとに成田が草案を作成し、この分類が適切かを白石と成田の二人で検討した。なお、主体が不明瞭だったり、理由ではなく経緯を回答していたり、区分が難しいと判断した回答内容を「不明」に分類した。

¹⁹ 「住居」と「立地」の区別は、アパートなどの住み替えを主と判断した回答を「住居」に、通勤などの利便性を重視しての転居が主と判断した回答を「立地」に分類した。

町 61.5%)、製造・運輸・建設など(むつ市 61.7%、おいらせ町 68.4%)の方が低い。個人年収別では、ともに 100 万円台が引っ越した経験のある人の割合が最も低く(むつ市 57.7%、おいらせ町 58.8%)、また個人年収が 200 万円台以下と 300 万円台以上では引っ越し経験の有無に違いがみられる。言い換えれば、個人年収が低い人ほど、引っ越しを経験していない傾向にあるといえそうである。

表8 クロス集計(引っ越し経験の有無×性別・年代・学歴・婚姻状態・職業・個人年収)

		むつ			おいらせ		
		引っ越した ことがある	引っ越した ことはない	N	引っ越した ことがある	引っ越した ことはない	N
		73.9%	26.1%	329	71.4%	28.6%	329
性別	男性	70.7%	29.3%	181	70.7%	29.3%	157
	女性	77.6%	22.4%	147	72.1%	27.9%	172
年代	20代	65.9%	34.1%	135	63.6%	36.4%	140
	30代	79.3%	20.7%	193	77.2%	22.8%	189
学歴	高卒以下	67.9%	32.1%	162	65.8%	34.2%	146
	専門・短大・大卒以上	82.7%	17.3%	150	75.3%	24.7%	158
婚姻状態	既婚	85.5%	14.5%	131	94.2%	5.8%	120
	未婚	63.2%	36.8%	171	56.8%	43.2%	183
職業	専門技術管理	80.0%	20.0%	55	80.3%	19.7%	71
	事務販売	67.6%	32.4%	68	76.1%	23.9%	67
	サービス	71.4%	28.6%	49	61.5%	38.5%	65
	製造・運輸・建設など	61.7%	38.3%	47	68.4%	31.6%	57
	保安	95.3%	4.7%	43	100.0%	0.0%	10
	農林漁業・その他	82.4%	17.6%	17	57.1%	42.9%	21
個人年収	100万円未満	63.2%	36.8%	57	74.5%	25.5%	55
	100万円台	57.7%	42.3%	52	58.8%	41.2%	68
	200万円台	70.0%	30.0%	70	63.1%	36.9%	65
	300万円台	82.8%	17.2%	58	81.0%	19.0%	63
	400～500万円台	92.9%	7.1%	56	85.7%	14.3%	49
	600万円台以上	87.5%	12.5%	16	80.0%	20.0%	10

(3) 移動経験者の前住地

ここでは、F10「現住地に引っ越される前の地域についてお教えてください〔都道府県・市町村〕」の回答結果から、移動経験者の前住地についてまとめる。

表 9 に示したように、前住地の都道府県のうち、青森県と回答した割合がどちらとも最も多かった(むつ市 56.2%、おいらせ町 68.8%)。

むつ市では、青森県内が 56.2%と半数をやや超える程度でとどまり、北海道(8.2%)、神奈川県(6.9%)、東京都(5.2%)など大都市部からの転入がみられる。青森県内では、現むつ市内での引っ越しが 3 割弱、次いで青森市(7.5%)、弘前市(4.8%)、八戸市(4.4%)と 3 都市からの引っ越しが多い(表 10)。また、むつ市における県外からの転入では、函館市・余市町・横須賀市・舞鶴市・江田島市・佐世保市・那覇市といった海上自衛隊の基地所在地となっている自治体からの転入がみられることも特徴といえるだろう。

おいらせ町では、青森県内で約 7 割、北海道・東北地方で 8 割となる。また、埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県首都圏が合わせて 12.0%となっている。前住地が青森県内であっても、むつ市の場合と

は傾向が異なり、現おいらせ町内が 15.7%、八戸市が 18.3%、三沢市が 17.5%など、近隣の市町村からの転入が多くみられる（表 11）。

表9 前住の都道府県

		むつ		おいらせ		
		(%)	累積(%)	(%)	累積(%)	
北海道	北海道	8.2	8.2	北海道	3.0	3.0
	青森県	56.2	64.4	青森県	68.8	71.8
東北	岩手県	2.1	66.5	岩手県	3.0	74.8
	宮城県	3.9	70.4	宮城県	4.3	79.1
	秋田県	1.3	71.7	秋田県	0.4	79.5
	山形県	0.9	72.5	山形県	—	—
	福島県	0.9	73.4	福島県	0.9	80.3
	茨城県	0.4	73.8	茨城県	—	—
関東	栃木県	0.4	74.2	栃木県	0.4	80.8
	群馬県	0.4	74.7	群馬県	0.4	81.2
	埼玉県	3.4	78.1	埼玉県	2.6	83.8
(首都圏)	千葉県	1.3	79.4	千葉県	1.7	85.5
	東京都	5.2	84.5	東京都	5.1	90.6
	神奈川県	6.9	91.4	神奈川県	2.6	93.2
	石川県	0.4	91.8	石川県	0.4	93.6
静岡県	0.9	92.7	長野県	0.4	94.0	
愛知県	0.9	93.6	岐阜県	0.9	94.9	
京都府	0.4	94.0	静岡県	0.9	95.7	
大阪府	0.9	94.8	愛知県	0.4	96.2	
奈良県	0.4	95.3	京都府	0.4	96.6	
岡山県	0.4	95.7	奈良県	0.4	97.0	
広島県	1.3	97.0	高知県	0.4	97.4	
香川県	0.9	97.9	福岡県	1.3	98.7	
福岡県	0.4	98.3	佐賀県	0.4	99.1	
長崎県	1.3	99.6	宮崎県	0.4	99.6	
沖縄県	0.4	100.0	沖縄県	0.4	100.0	
N		233		234		

表10 前住の市町村(むつ市)

むつ		(%)			(%)
北海道 (19)	石狩市	0.4	北関東 (3)	宇都宮市	0.4
	恵庭市	0.4		東海村	0.4
	旭川市	0.4		太田市	0.4
	札幌市	1.8	朝霞市	0.4	
	網走市	0.4	寄居町	0.4	
	※ 函館市	3.5	所沢市	0.4	
	※ 余市町	0.4	さいたま市	0.9	
	室蘭市	0.4	鶴ヶ島市	0.4	
	江別市	0.4	日高市	0.4	
	※ むつ市	26.4	川越市	0.4	
旧大畑町(現むつ市)	1.8	市川市	0.4		
旧川内町(現むつ市)	0.9	松戸市	0.4		
大間町	0.4	府中市	0.4		
東通村	2.2	目黒区	0.4		
横浜町	1.3	板橋区	0.4		
六ヶ所村	0.4	港区	0.4		
野辺地町	0.9	文京区	0.4		
青森県 (131)	青森市	7.5	世田谷区	0.4	
平内町	0.4	杉並区	0.4		
※ 八戸市	4.4	日野市	0.4		
南部町	0.4	調布市	0.4		
十和田市	1.3	川崎市	0.4		
三沢市	2.2	相模原市	0.4		
弘前市	4.8	横浜市	2.2		
五所川原市	0.4	※ 横須賀市	2.6		
鯉ヶ沢町	0.9	※ 厚木市	0.4		
深浦町	0.4	鶴見区	0.4		
盛岡市	1.8	海老名市	0.4		
北上市	0.4	輪島市	0.4		
青森県 以外の 東北 (22)	仙台市	4.0	清水町	0.4	
にかほ市	0.4	御前崎市	0.4		
能代市	0.4	名古屋市	0.4		
秋田市	0.4	小牧市	0.4		
寒河江市	0.9	※ 舞鶴	0.4		
平田村	0.4	大阪市	0.4		
いわき市	0.4	天理市	0.4		
		倉敷市	0.4		
		※ 江田島市	1.3		
		高松市	0.4		
		坂出	0.4		
		北九州市	0.4		
		※ 佐世保市	0.4		
		大村市	0.9		
		※ 那覇市	0.4		
		その他 (19)			
		N	227		

注) 海上自衛隊の基地所在自治体に「※」を付した

表11 前住の市町村(おいらせ町)

おいらせ		(%)	おいらせ		(%)
北海道 (7)	札幌市	1.3	北関東 (2)	日光市	0.4
	函館市	0.4		高崎市	0.4
	根室市	0.4		坂戸市	0.4
	千歳市	0.4		嵐山町	0.4
おいらせ町		15.3		日高市	0.4
旧下田町(現おいらせ町)		0.4		草加市	0.4
八戸市		18.3		熊谷市	0.9
三沢市		17.5		市川市	0.4
六戸町		1.7		八千代市	0.4
五戸町		0.9		船橋市	0.9
青森県 (161)	十和田市	4.8	首都圏 (25)	八王子市	0.9
	六ヶ所村	1.7		国立市	0.4
	旧天間村林(現七戸町)	0.4		中野区	0.9
	東北町	0.4		台東区	0.9
	階上町	0.4		葛飾区	0.4
	三戸町	0.4		日野市	0.4
	むつ市	0.9		川崎市	0.4
	青森市	4.8		相模原市	0.4
	弘前市	1.7		茅ヶ崎市	0.9
	鱒ヶ沢町	0.4		横浜市	0.4
				横須賀市	0.4
	盛岡市	1.3		白山市	0.4
	滝沢市	0.9		長野市	0.4
	久慈市	0.4		各務原市	0.9
	山田町	0.4		浜松市	0.4
青森県 以外の 東北 (19)	東松島市	0.9		沼津市	0.4
	富谷市	0.4		一宮市	0.4
	栗原市	0.4	その他 (16)	京都市	0.4
	仙台市	1.7		奈良市	0.4
	石巻市	0.4		南国市	0.4
	秋田市	0.4		広川町	0.4
	福島市	0.4		春日市	0.4
	二本松市	0.4		福岡市	0.4
				唐津市	0.4
				宮崎市	0.4
			那覇市	0.4	
			N		229

2-3. 居住歴、および現在の地域に移ってきた経緯・理由

ここでは、問5の「居住歴について、以下から最も近い選択肢ひとつに○をつけてください〔選択肢は表12を参照〕」の回答結果から、現住の地域が「地元」であるか、そして現住の地域に移ってきた経緯・理由についてまとめる。

(1) 単純集計

まず、表12から現住の地域が「地元」であるかを確認しておく²⁰。現住の地域が「地元」である割合は、むつ市が67.5%、おいらせ町が60.0%で回答者の6割以上だった。さらに現在の地域に移ってきた経緯を詳しくみていくと、むつ市・おいらせ町のどちらとも、「他の地域で暮らしたことが無い」と回答した、いわゆる「土着層」は約25%だった。また、他の地域での生活を経験して戻ってきた「Uターン層」は、むつ市で43.6%、おいらせ町で35.6%だった。経緯別にみると、「学校卒業（中退）後、戻ってきた」がむつ市で24.2%、おいらせ町で19.9%と2割前後おり、「他の地域で就職後、戻ってきた」者は若干おいらせ町の方が少ないが、ともに2割弱存在した（むつ市19.4%、おいらせ町15.7%）。

他の地域が「地元」である、いわゆる「転入層」の割合は、むつ市が29.0%、おいらせ町が36.3%と、おいらせ町の方が約7%高かった。現住の地域に移ってきた理由として、むつ市では「仕事」（19.1%）が大半を占めており、そのほかの理由をあげた回答者はそれぞれ5%に満たなかった。他方おいらせ町では、「結婚」が11.1%、「住み替え」が11.1%、「仕事」が9.0%と、この3項目がそれぞれ1割前後あげられた。

表12 居住歴

		むつ (N=335)	おいらせ (N=332)	
現住の地域が 「地元」	他の地域で暮らしたことがない	23.9	24.4	（土着層）
	他の地域の学校を卒業（または中退）後、戻ってきた	24.2	19.9	（Uターン層）
	他の地域で就職後、戻ってきた	19.4	15.7	
他の地域が 「地元」	結婚のため今住んでいる地域に移った	4.5	11.1	（転入層）
	仕事のため今住んでいる地域に移った	19.1	9.0	
	就学のため今住んでいる地域に移った	1.5	0.9	
	住み替えのため今住んでいる地域に移った	0.9	11.1	
	家族の都合で今住んでいる地域に移った	3.0	4.2	
その他	その他	3.6	3.6	（その他）

(2) 属性別の居住歴

続いて、性別、年代、学歴、婚姻状態、職業、個人年収によって居住歴（「土着層」／「Uターン層」／「転入層」）が異なるのかを確認してみたい²¹（表13）。

²⁰ 本章では、「その他」の回答内容についての分析はおこなわない。また、「その他」の自由回答の記述内容をふまえて再分類して分析をおこなった轡田の分析結果と異なっている場合がある点に注意。

²¹ なお、「その他」は分析から除外している。本章での居住歴の分類、および用いた選択肢は次の通り。「土着層」＝「A 今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で暮らしたことがない」。「Uターン層」＝「B 今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域の学校を卒業（または中退）後、戻ってきた」／「C 今住んでいる地域が「地元」であり、他の地域で就職後、戻ってきた」。「転入層」＝「D 結婚のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である」／「E 仕事のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である」／「F 就学のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である」／「G 住み替えのため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である」／「H 家族

表13 クロス集計表(居住歴×性別・年代・学歴・職業・個人年収)

		むつ				おいらせ			
		土着層	Uターン層	転入層	N	土着層	Uターン層	転入層	N
		24.8%	45.2%	30.0%	323	25.3%	36.9%	37.8%	320
性別	男性	20.7%	43.6%	35.8%	179	23.5%	42.5%	34.0%	153
	女性	29.4%	47.6%	23.1%	143	26.9%	31.7%	41.3%	167
年代	20代	27.6%	41.0%	31.3%	134	31.8%	39.4%	28.8%	132
	30代	22.3%	48.4%	29.3%	188	20.7%	35.1%	44.1%	188
学歴	高卒以下	41.0%	32.9%	26.1%	161	36.4%	25.0%	38.6%	140
	専門・短大・大卒以上	4.2%	61.8%	34.0%	144	19.0%	44.9%	36.1%	158
婚姻状態	既婚	18.9%	45.7%	35.4%	127	13.6%	20.3%	66.1%	118
	未婚	29.9%	44.5%	25.6%	164	34.9%	44.2%	20.9%	172
職業	専門技術管理	9.6%	61.5%	28.8%	52	18.9%	37.8%	43.2%	74
	事務販売	26.6%	59.4%	14.1%	64	25.4%	44.8%	29.9%	67
	サービス	30.6%	49.0%	20.4%	49	32.2%	33.9%	33.9%	59
	製造・運輸・建設など	42.6%	36.2%	21.3%	47	35.8%	32.1%	32.1%	53
	保安	7.0%	18.6%	74.4%	43	0.0%	10.0%	90.0%	10
	農林漁業・その他	17.6%	47.1%	35.3%	17	28.6%	42.9%	28.6%	21
個人年収	100万円未満	40.7%	30.5%	28.8%	59	13.2%	37.7%	49.1%	53
	100万円台	38.0%	48.0%	14.0%	50	38.8%	34.3%	26.9%	67
	200万円台	21.7%	59.4%	18.8%	69	36.5%	31.7%	31.7%	63
	300万円台	17.5%	50.9%	31.6%	57	18.6%	44.1%	37.3%	59
	400～500万円台	7.8%	37.3%	54.9%	51	10.0%	40.0%	50.0%	50
	600万円台以上	17.6%	17.6%	64.7%	17	20.0%	30.0%	50.0%	10

注)行で最も割合の高い箇所を太字にした。

性別で見ると、むつ市ではともにUターン層が最も多い(男性43.6%、女性47.6%)。対しておいらせ町では、男性はUターン層が最も多いが(42.5%)、女性は転入層が最も多くなっている(41.3%)。年代別では、おいらせ町の30代で転入層が最も高い割合を示す(44.1%)のを除けば、Uターン層が多くなっている(むつ市:20代41.0%、30代48.4%/おいらせ町:20代39.4%)。学歴別では、専門・短大・大学以上では(10ポイント以上の差はあるものの)、ともにUターン層が多い(むつ市61.8%、おいらせ町44.9%)。他方、高卒以下では、むつ市では土着層が最も多い(41.0%)のに対し、おいらせ町は(こちらはわずか2ポイントの差だが)転入層の方が多い(38.6%)。また、むつ市内から通学できる高等教育機関が限られていることもあり、専門・短大・大卒以上の土着層はほぼみられなかった(4.2%)。婚姻状態別でも基本的にUターン層が多いが、おいらせ町の既婚者だけは転入層が最も高かった(66.1%)。職業別では、保安は両地域ともに転入層が多い(むつ市74.4%、おいらせ町90.0%)のに対し、製造・運輸・建設などは両地域とも土着層の占める割合が高かった(むつ市42.6%、おいらせ町35.8%)。また事務販売とサービスの多くはUターン層が占めているが、専門技術管理は、むつ市ではUターン層が61.5%(土着層はわずか9.6%)、おいらせ町では転入層が43.2%であり、職業によって居住歴が異なる傾向にあった。そして個人年収別では、明確な違いがみられた。むつ市では、年収が高いのは転入層で(600万円以上:64.7%、400～500万円台:54.9%)、Uターン層は100万円台～300

の都合のため今住んでいる地域に移ったが、他の地域が「地元」である」。

万円台に多く、100万円未満に土着層が最も多い(40.7%)。くわえて、年収のカテゴリが下がるにつれて、土着層の占める割合が増加する傾向にあり、転入層のそれとは対照的である。他方のおいらせ町も、やや極端な傾向がみられ、100万円未満と400~500万円台と600万円以上のカテゴリでは転入層が最も多い(100万円未満:49.1%、400~500万円台:50.0%、600万円以上:50.0%)一方で、100万円台と200万円台は土着層が最も多いことが明らかになった(100万円台:38.8%、200万円台:36.5%)。

2-4. 車の所有状況

ここでは、問4の「あなたが同居されているご家族で車をもっている方はどなたですか〔複数回答。選択肢は表14参照〕」の回答結果から、同居家族員の車の所有状況をみていきたい。

(1) 単純集計

表14に示したように、むつ市・おいらせ町ともに、一家族で車を保有している割合の高さが指摘できる。回答者自身も含めて、同居している家族員の誰かが車を所有している割合は、むつ市が97.0%、おいらせ町が98.8%だった。また回答者自身に限定しても、車の所有率はむつ市で76.2%、おいらせ町で82.4%だった。両地域で比較したとき、回答者自身、きょうだい、父親、母親それぞれにおいて、おいらせ町の方が10ポイント前後、所有率が高い。ただし、この単純集計表のみでは同居者がいる回答者が少なかったのか、あるいは同居家族員の自家用車の所有率が低いのかは不明であるため、後ほど確認する。

表14 同居家族員の車の所有状況

	むつ			おいらせ		
	所有	非所有/ 非同居	N	所有	非所有/ 非同居	N
同居家族員の誰か	97.0	3.0	333	98.8	1.2	334
自分	77.8	22.2	333	83.8	16.2	334
配偶者	36.4	63.6	332	36.1	64.2	332
父親	39.0	61.0	333	51.1	49.2	333
母親	35.4	64.6	333	53.2	46.8	333
きょうだい	14.4	85.6	333	25.7	74.3	334
祖父	3.6	96.4	333	3.9	96.1	334
祖母	1.2	98.8	333	3.6	96.4	333
子ども	0.9	99.1	333	1.8	98.2	334

(2) クロス表集計①: 回答者の車の所有状況

続いてクロス表集計の結果をもとに、回答者自身の車の所有状況について、性別、年代、学歴、職業、個人年収別にみていく。全体的に7割以上という高い割合で自身の車を所有していることを前提としながらも、表15から車の所有状況を概観してみると、「むつ市(条件不利地域圏)」の「高卒以下」の「20代」「女性」はほかのカテゴリに比べると若干低い傾向にある。他方、「おいらせ町(地方中枢拠点都市圏)」の「専門・短大・大卒以上」の「30代」「男性」は若干高い傾向がみられ、「むつ市(条件不利地域圏)」の「高卒以下」の「20代」「女性」と対照的である。また、もう一点注目されるのは、個人年収が100万円台の車の所有状況である。むつ市(65.4%)とおいらせ町(85.5%)で20ポイントの差があった。

表15 クロス集計表(回答者の車の所有状況×性別・年代・学歴・職業・個人年収)

		むつ			おいらせ		
		車あり	車なし	N	車あり	車なし	N
		77.8%	22.2%	333	83.8%	16.2%	334
性別	男性	80.7%	19.3%	181	87.9%	12.1%	157
	女性	74.2%	25.8%	151	80.2%	19.8%	177
年代	20代	68.8%	31.2%	138	79.4%	20.6%	141
	30代	84.0%	16.0%	194	87.0%	13.0%	193
学歴	高卒以下	76.7%	23.3%	163	84.4%	15.6%	147
	専門・短大・大卒以上	83.3%	16.7%	150	88.3%	11.7%	162
婚姻状態	既婚	87.0%	13.0%	131	86.7%	13.3%	120
	未婚	71.6%	28.4%	169	80.2%	19.8%	182
職業	専門技術管理	87.3%	12.7%	55	86.5%	13.5%	74
	事務販売	88.2%	11.8%	68	90.1%	9.9%	71
	サービス	74.0%	26.0%	50	81.3%	18.8%	64
	製造・運輸・建設など	89.4%	10.6%	47	94.5%	5.5%	55
	保安	79.1%	20.9%	43	90.0%	10.0%	10
	農林漁業・その他	62.5%	37.5%	16	95.2%	4.8%	21
個人年収	100万円未満	48.3%	51.7%	60	55.4%	44.6%	56
	100万円台	65.4%	34.6%	52	85.5%	14.5%	69
	200万円台	93.1%	6.9%	72	95.5%	4.5%	66
	300万円台	86.7%	13.3%	60	93.5%	6.5%	62
	400～500万円台	86.5%	13.5%	52	88.2%	11.8%	51
	600万円台以上	94.1%	5.9%	17	100.0%	0.0%	10

(3) クロス表集計②：父親と母親、および配偶者の車の所有状況

ここでは、同居している父親と母親、および配偶者の車の所有状況についてみていく。先の選択肢のうち、現在、父親または母親との同別居状態（F6「以下に挙げるあなたの家族・親族がそれぞれ現在どこに住んでいますか〔A 自分の父親／B 自分の母親／C 配偶者〕」で「1 同居している」を選択した回答者）とのクロス表集計をおこなった²²。

その結果、むつ市・おいらせ町のどちらとも、同居している父親は90%以上、母親は70%以上、車を所有していた（表16）。つまり、おいらせ町の回答者の父親と母親の車の所有率の高さは、同居率の違いによるものだと考えて差し支えないだろう。

²² きょうだいや祖父母に関しては、同別居状態を確認できる項目が本調査に含まれていないため、検討できなかった。

表16 同居する配偶者・父親・母親の車の所有

	むつ			おいらせ		
	車あり	車なし	N	車あり	車なし	N
配偶者	84.4	15.6	122	90.3	9.7	124
父親	93.1	6.9	101	97.1	2.9	137
母親	71.4	28.6	119	82.1	17.9	179

2-5. 現住地での定住希望、および将来の定住の見通し

最後に、問 1²³のうち、G「今後、可能ならば、現在住んでいる地域に住み続けたいと思っている」と H「20 年後も、現在住んでいる地域か、その近くに住んでいると思う」の回答結果から、現住地域での定住希望（問 1G）、および将来の定住見通し（問 1F）についてみていく。

(1) 単純集計

まず、現住地域での定住希望について記述する。図 1 に示したように、むつ市では現在の地域に住み続けたいと思っている人の割合は、そうではない人に比べて若干多い。「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせて 50.9%、「全くそうではないと思う」と「どちらかと言えばそうではないと思う」をあわせて 47.1%だった。一方、おいらせ町では、約 7 割が現在の地域に住み続けたいと思っており（69.4%）、そうではない人は 3 割に満たなかった（27.9%）。ただし、「全くそう思う」と回答した強い定住希望のある人の割合は、むつ市とおいらせ町で、ほぼ同数であった。おいらせ町の「どちらかと言えばそう思う」の割合と、むつ市における「全くそうではないと思う」の割合の差が（おおよそ 15~20%）、ほぼそのまま、むつ市とおいらせ町との間の定住希望者の割合の差として表れている。

また、現住地域での将来の定住の見通しについては、20 年後も現住地で定住していると予想する人の割合（「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」）は、両地域とも約 6 割以上だった（むつ市が 59.7%、おいらせ町が 69.8%）。そのうちの、かなりの程度で現住地域に住んでいるだろうと考えている人（「全くそう思う」と回答）の割合は、むつ市が 31.2%、おいらせ町が 27.4%で大きな差はなかった（むしろ、むつ市の方が若干高い）。対して、おそらく将来は現住地に住んでいないと予想している（「全くそうではないと思う」）人の割合は、むつ市が 19.7%、おいらせ町が 10.0%で、約 10 ポイントの差がみられる。

²³ 質問文は、「あなたは、現在住んでいる地域について、どのように感じていますか。それぞれの項目で、お考えに一番近い番号に○をつけてください〔選択肢は図 1 参照〕」である。

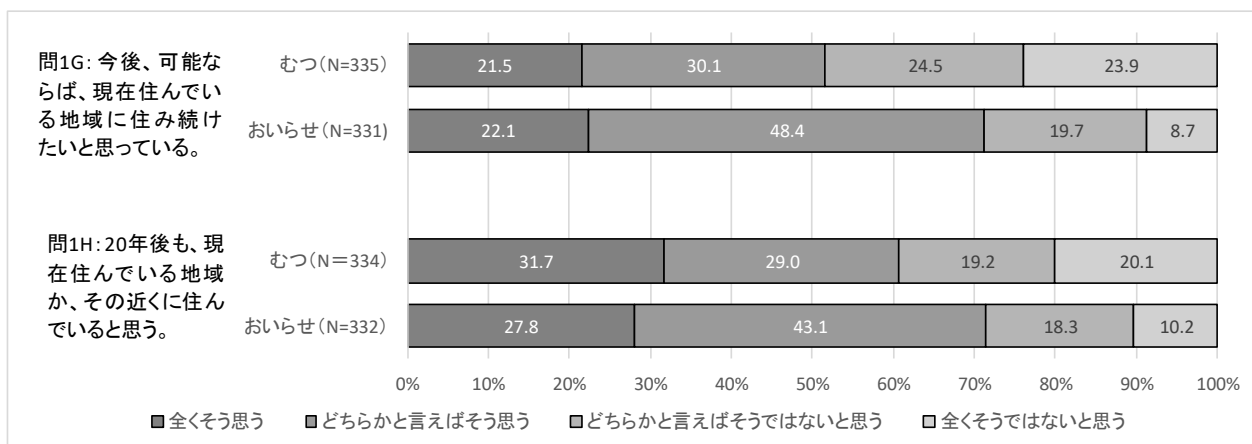


図1 現住地での定住希望および見通し

(2) クロス表集計①：属性別の定住希望

続いて、現住地域での定住希望と各属性（性別、出身地、年代、学歴、婚姻状態、居住歴（土着層／Uターン層／転入層）、職業、個人年収）との関連から検討していく（表 17）。

おいらせ町では、ほぼ全てのカテゴリにおいて「どちらかと言えばそう思う」が最も高い割合で、かつ5割前後を占めている。「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、ほぼすべてのカテゴリにおいて、約7割以上がおいらせ町での定住を希望していた。そのなかで定住希望の割合が低かったカテゴリは、青森県外出身者（「全くそう思う」16.0%、「どちらかと言えばそう思う」36.0%）、20代（「全くそう思う」15.0%、「どちらかと言えばそう思う」47.9%）、未婚者（「全くそう思う」17.7%、「どちらかと言えばそう思う」47.5%）だった。とはいえ、それでも合わせると過半数は定住を希望しているという結果だった。

他方、むつ市では、カテゴリによって定住を希望する層としない層が明瞭に分かれた。年代では大きな差はみられないものの、男性に比べると女性が、市町村内出身者に比べると市町村外出身者（むつ市以外の青森県内出身者と青森県外出身者）が、土着層やUターン層に比べると転入層がむつ市での定住に否定的な傾向にある。婚姻状態によっても若干の違いがみられた。（既婚者・離死別者よりは未婚の方がやや定住に否定的）。職業別で見ると、保安が強く否定的だが、専門技術管理とサービス業従事者は、ほぼ半々であった。個人年収別では、400万円～500万円台以上の高収入なカテゴリでは定住に否定的な割合が多い。それ以外は基本的に定住を希望する傾向にあるが、100万円台のカテゴリではどちらともいえない状況にある。

表17 クロス集計表（現住地での定住希望×性別・出身地・年代・学歴・婚姻状態・居住歴・職業・個人年収）

		むつ					おいらせ				
		全く そう思う	どちらかと 言えば そう思う	どちらかと 言えば そうではない と思う	全く そうではな いと思う	N	全く そう思う	どちらかと 言えば そう思う	どちらかと 言えば そうではな いと思う	全く そうではな いと思う	N
		21.5%	30.1%	24.5%	23.9%	335	22.1%	48.4%	19.7%	8.7%	331
性別	男性	23.6%	33.5%	19.2%	23.6%	182	24.5%	53.5%	14.2%	7.7%	155
	女性	19.1%	26.3%	30.9%	23.7%	152	20.5%	44.9%	25.0%	9.7%	176
出身地	市町村内	28.6%	34.4%	23.2%	13.8%	224	27.4%	47.5%	18.4%	6.7%	179
	青森県内	6.0%	24.0%	32.0%	38.0%	50	18.5%	53.7%	21.3%	6.5%	108
	青森県外	2.2%	11.1%	26.7%	60.0%	45	16.0%	36.0%	24.0%	24.0%	25
年代	20代	21.6%	28.1%	28.1%	22.3%	139	15.0%	47.9%	26.4%	10.7%	140
	30代	21.5%	31.8%	22.1%	24.6%	195	27.7%	49.7%	15.2%	7.3%	191
学歴	高卒以下	23.0%	27.3%	29.1%	20.6%	165	23.4%	57.9%	12.4%	6.2%	145
	高専・短大・大卒以上	19.3%	31.3%	21.3%	28.0%	150	21.7%	44.1%	24.8%	9.3%	161
婚姻状態	既婚	26.7%	29.8%	22.1%	21.4%	131	26.9%	52.9%	12.6%	7.6%	119
	未婚	20.5%	26.3%	26.9%	26.3%	171	17.7%	47.5%	25.4%	9.4%	181
居住歴	土着層	35.0%	31.3%	23.8%	10.0%	80	25.9%	58.0%	13.6%	2.5%	81
	Uターン層	25.3%	37.0%	21.9%	15.8%	146	28.2%	39.3%	22.2%	10.3%	117
	転入層	4.1%	19.6%	28.9%	47.4%	97	13.3%	53.3%	21.7%	11.7%	120
職業	専門技術管理	20.0%	30.9%	25.5%	23.6%	55	20.3%	44.6%	27.0%	8.1%	74
	事務販売	26.5%	30.9%	22.1%	20.6%	68	22.9%	51.4%	14.3%	11.4%	70
	サービス	16.0%	36.0%	36.0%	12.0%	50	20.6%	42.9%	25.4%	11.1%	63
	製造・運輸・建設など	31.9%	38.3%	17.0%	12.8%	47	20.0%	56.4%	18.2%	5.5%	55
	保安	11.4%	22.7%	22.7%	43.2%	44	22.2%	55.6%	0.0%	22.2%	9
	農林漁業・その他	35.3%	23.5%	23.5%	17.6%	17	23.8%	52.4%	14.3%	9.5%	21
個人年収	100万円未満	16.4%	31.1%	29.5%	23.0%	61	19.6%	48.2%	21.4%	10.7%	56
	100万円台	19.2%	30.8%	32.7%	17.3%	52	18.8%	47.8%	21.7%	11.6%	69
	200万円台	27.8%	30.6%	23.6%	18.1%	72	18.2%	56.1%	15.2%	10.6%	66
	300万円台	21.7%	38.3%	25.0%	15.0%	60	24.2%	46.8%	27.4%	1.6%	62
	400～500万円台	17.0%	24.5%	17.0%	41.5%	53	28.6%	46.9%	16.3%	8.2%	49
	600万円台以上	0.0%	35.3%	23.5%	41.2%	17	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	10

注) 行で最も割合の高い箇所を太字にした。

(3) クロス集計②：属性別の定住見通し

最後に、現住地域での定住希望と各属性（性別、出身地、年代、学歴、婚姻状態、居住歴（土着層／Uターン層／転入層）、職業、個人年収）との関連から検討したい（表18）。

先の定住希望と同様に、一部のカテゴリ（青森県外出身者、未婚、保安、専門技術管理）を除いて、おいらせ町では現住地での将来的な定住を予想している割合が高かった。ただし、おいらせ町の女性は将来も現住地に定住するであろうと回答した人の割合が考えている割合がむつ市の女性や両地域の男性と比較して10ポイント近く低かった。

むつ市においても、カテゴリによって、定住希望とほぼ同じような形で、意識の違いが指摘できそうである。一点加えるならば、定住希望では、やや否定的（「どちらかと言えばそうではない」と回答）であったり、比較的肯定的（「どちらかと言えばそう思う」と回答）であったりした人びとが、定住の見通しではより定住に寄った回答をしているようにみえる。この点に関しては今後さらに分析する必要がある

るが、全体的に「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合が、定住希望（「そう思う」21.5%、「どちらかと言えばそう思う」30.1%、あわせて51.5%）よりも、定住見通し（「そう思う」31.7%、「どちらかと言えばそう思う」29.0%、あわせて60.7%）の方が高いことから、その傾向に大きな誤りはないだろう。そうであるならば、むつ市の若者たち（条件不利地域圏在住者）は、その理由や動機、背景がポジティブであれ、ネガティブであれ、将来的には現住地に定住する（あるいは定住し続ける）ことを想定している状況にあることがうかがえる。

表18 クロス集計表（現住地での定住見通し×性別・出身地・年代・学歴・婚姻状態・居住歴・職業・個人年収）

	むつ				N	おいらせ				N
	全く そう思う	どちらか と言えば そう思う	どちらか と言えば そうではな いと思う	全く そうではな いと思う		全く そう思う	どちらか と言えば そう思う	どちらか と言えば そうではな いと思う	全く そうではな いと思う	
	31.7%	29.0%	19.2%	20.1%	334	27.8%	43.1%	18.3%	10.2%	332
性別										
男性	33.0%	29.1%	17.0%	20.9%	182	33.8%	40.8%	14.0%	11.5%	157
女性	30.5%	29.1%	21.9%	18.5%	151	22.9%	45.7%	22.3%	9.1%	175
出身地										
市町村内	41.3%	32.7%	20.2%	5.8%	223	33.9%	41.1%	18.9%	6.1%	180
青森県内	20.0%	18.0%	22.0%	40.0%	50	26.2%	48.6%	16.8%	8.4%	107
青森県外	2.2%	15.6%	15.6%	66.7%	45	11.5%	42.3%	11.5%	34.6%	26
年代										
20代	27.5%	30.4%	23.2%	18.8%	138	20.0%	41.4%	27.1%	11.4%	140
30代	34.9%	28.2%	16.4%	20.5%	195	33.9%	44.8%	12.0%	9.4%	192
学歴										
高卒以下	34.1%	26.2%	23.8%	15.9%	164	31.5%	45.2%	15.1%	8.2%	146
高専・短大・大卒以上	29.3%	30.7%	13.3%	26.7%	150	25.9%	44.4%	19.1%	10.5%	162
婚姻状態										
既婚	38.9%	25.2%	14.5%	21.4%	131	35.3%	44.5%	10.1%	10.1%	119
未婚	29.4%	28.8%	23.5%	18.2%	170	21.5%	44.2%	23.8%	10.5%	181
居住歴										
土着層	54.4%	25.3%	17.7%	2.5%	79	35.8%	45.7%	14.8%	3.7%	81
Uターン層	34.9%	39.7%	17.1%	8.2%	146	32.2%	38.1%	19.5%	10.2%	118
転入層	8.2%	17.5%	22.7%	51.5%	97	18.3%	46.7%	19.2%	15.8%	120
職業										
専門技術管理	29.1%	29.1%	16.4%	25.5%	55	21.6%	43.2%	25.7%	9.5%	74
事務販売	35.3%	36.8%	13.2%	14.7%	68	26.8%	52.1%	15.5%	5.6%	71
サービス	32.0%	34.0%	22.0%	12.0%	50	22.2%	42.9%	17.5%	17.5%	63
製造・運輸・建設など	52.2%	26.1%	13.0%	8.7%	46	30.9%	47.3%	9.1%	12.7%	55
保安	15.9%	20.5%	20.5%	43.2%	44	20.0%	20.0%	30.0%	30.0%	10
農林漁業・その他	47.1%	17.6%	23.5%	11.8%	17	38.1%	38.1%	19.0%	4.8%	
個人年収										
100万円未満	23.3%	35.0%	21.7%	20.0%	60	28.6%	33.9%	25.0%	12.5%	56
100万円台	28.8%	42.3%	17.3%	11.5%	52	22.1%	47.1%	23.5%	7.4%	68
200万円台	37.5%	30.6%	19.4%	12.5%	72	19.7%	48.5%	16.7%	15.2%	66
300万円台	36.7%	26.7%	18.3%	18.3%	60	32.3%	48.4%	12.9%	6.5%	62
400～500万円台	26.4%	22.6%	18.9%	32.1%	53	39.2%	33.3%	17.6%	9.8%	51
600万円台以上	29.4%	5.9%	11.8%	52.9%	17	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	10

注)行で最も割合の高い箇所を太字にした。

2-6. おわりに

(1) 知見のまとめ

以上、大掴みにはあるが、本調査における条件不利地域圏（むつ市）および地方中枢拠点都市圏（おいらせ町）在住者の過去の移動経験、および現住地への定住希望・見通しについてみてきた。ここまでの知見を改めてまとめると、次のようになる。

- ①引っ越し経験者は、むつ市、おいらせ町ともに7割以上おり、反対に引っ越しをしたことが無い人びと（＝土着層）は、3割未満だった。
- ②引っ越し経験者のうち、おいらせ町在住者の方が、むつ市在住者よりも現住地域での居住年数が長い傾向がみられた。
- ③引っ越しの理由では、むつ市は自身の仕事関連が、おいらせ町は住居の購入や（配偶者や家族との）同居・住み替えをとまなうものが多かった。また、選択肢に含まれていなかった「結婚・同棲」「出産・子育て」関連についても、両地域で2割前後回答された。
- ④引っ越し経験の有無と属性との関連についてみると、男性より女性の方が、20代よりも30代の方が、高卒以下よりも専門・短大・大卒以上の方が、未婚よりも既婚の方が引っ越し経験者の割合が高かった。また、職業別では、保安ではむつ市・おいらせ町ともに9割以上、専門技術管理では8割が引っ越しを経験しており、他の職業に比べると高かった。個人年収別にみると、基本的には年収が高くなるほど引っ越し経験者の占める割合が高くなる傾向がみられた。
- ⑤引っ越し経験者の前住地は、両地域ともに青森県内が最も多かった（むつ市56.2%・おいらせ町68.8%）。おいらせ町は約7割が県内の他市町村からの引っ越しであり、八戸市、三沢市、おいらせ町内の近隣からの引っ越しが中心だった。一方むつ市は、半数弱が県外からの引っ越しであり、海上自衛隊所在自治体からの引っ越しが多くみられた。
- ⑥現住地域が「地元」である回答者の割合は、おいらせ町に比べるとむつ市の方が若干多い（むつ市67.5%・おいらせ町60.0%）。
- ⑦居住歴別にみると、むつ市は土着層（23.9%）／Uターン層（43.6%）／転入層（29.0%）、おいらせ町は土着層（24.4%）／Uターン層（35.6%）／転入層（36.3%）だった。土着層の比率はむつ市・おいらせ町ともに同程度だったが、むつ市ではUターン層の方が、おいらせ町では転入層の方が約10%高いという違いがみられた。
- ⑧居住歴と属性との関連から検討したところ、むつ市では基本的にUターン層が多かった。ただし、そのなかで土着層の割合が最も多かったのは、高卒以下（41.0%）、製造・運輸・建設など（42.6%）、100万未満（40.7%）であり、また転入層の割合が多かったのは保安（74.4%）、400～500万円台（54.9%）、600万円以上（64.7%）だった。
- ⑨おいらせ町における居住歴と属性との関連については、むつ市のように全体的としての傾向をとらえるのが困難だったため、ここでは個別的な指摘にとどめる。Uターン層が多かったのは、男性（42.5%）、20代（39.4%）、専門・短大・大卒以上（44.9%）、未婚（44.2%）と離死別（78.9%）だった。他方、転入層が多かったのは女性（41.3%）、30代（44.1%）、高卒以下（38.6%）、既婚（66.1%）だった。職業別では、製造・運輸・建設など（35.8%）のみ土着層が最も多かった。専門技術管理（43.2%）と保安（90.0%）は転入層が、事務販売（44.8%）はUターン層が多くを占めていた。個人年収別にみると、100万円未満、400～500万円台、600万円以上の約5割は転入層だった。他方で100万円台（38.8%）と200万円台（36.5%）では土着層が、300万円台で

はUターン層が最も多かった。

- ⑩むつ市・おいらせ町とも、ほぼすべての回答者で同居家族のうち誰かが車を所有していた。同居家族員別の所有率は、むつ市と比べるとおいらせ町の方が若干高かった。
- ⑪回答者自身の車の所有率は、「むつ市」の「20代」の「高卒以下」で「現在結婚していない女性」という一部の属性だけ低かった。また、「100万円台」の車の所有率について、むつ市（65.4%）とおいらせ町（85.5%）では20%の差がみられた。
- ⑫現住地域での定住希望に対して肯定的な回答を示した割合は、むつ市では半数、おいらせ町では約7割だった。ただし、定住を強く希望している割合（「全くそう思う」と回答）は、両地域を比較するとほぼ同じであった。この2割弱の違いは、むつ市の強い否定の割合が高かったことよってみられるものだった。
- ⑬むつ市では6割、おいらせ町では7割の回答者が、現住地域で定住するという見通しであった。他方、むつ市の回答者の2割は、現住地域で定住することはないと回答した。
- ⑭属性別に定住希望との関連をみると、おいらせ町では、ほぼすべてのカテゴリでおおよそ7割以上が現住地での定住に肯定的だった。そのなかで相対的に定住を希望者の割合が相対的に低いカテゴリ（青森県外出身、20代、未婚者）でも、半数以上は現住地での定住を希望していた。
- ⑮一方、むつ市における現住地での定住希望は、属性によって明瞭に分かれた。男性より女性が、むつ市内出身者よりも市外出身者が、土着層やUターン層に比べると転入層がむつ市での定住に否定的だった。また職業別では保安が、個人年収別では400～500万円台と600万円以上の層が、定住に否定的だった。
- ⑯属性別の定住見通しでも、おいらせ町では定住希望と同様に一部のカテゴリ（青森県外出身者、未婚、保安、専門技術管理）を除くと、現住地で定住すると見通している割合が高かった。
- ⑰むつ市の定住見通しと属性との関連についても、定住希望と同様の傾向がみられた。加えて、定住希望に比べると定住見通しの方が、定住寄りになっていることが示された。

(2) 今後の課題

以上のように、条件不利地域圏（むつ市）と地方中枢拠点都市圏（おいらせ町）では、移動経験（引越しの有無）や居住経歴（土着層/Uターン層/転入層）に異なる傾向があることが示唆された。それらは現住地での定住希望や将来的な定住の見通しにも影響を与えうる。今後は条件不利地域圏/地方中枢拠点都市圏の区分だけでなく、農村的（周辺部）/都市的（市街地）の生まれ（育ち）であるのかも含め、さらなる分析・考察をおこなう必要がある。

[参考文献]

轡田竜蔵, 2016, 『公益財団法人マツダ財団委託研究「広島 20-30代住民意識調査」報告書（統計分析篇）[第2版]』公益財団法人マツダ財団。